

地域子ども教室推進事業『スペース～遊U～』

－ 県立施設における2年間の事業展開をととして －

生涯学習支援課

【要旨】平成16年度から文部科学省が、全国の小学校などを活用して3ヶ年計画で緊急かつ計画的に子どもの居場所を用意する「地域子ども教室推進事業」を展開し、本県においても促進の拠点を「地域ふれあいルーム」として全県的に開設した。ここでは、当学びの丘で県立施設として開設した「地域ふれあいルーム スペース～遊U～」（以下、スペース～遊U～と称する。）の2年間（平成17年度・18年度）の事業展開について幾多の視点から顧みることにより、今後の紀南地方における生涯学習、社会教育事業への反映について一考察を行うこととする。

【キーワード】地域の教育力再生、地域ぐるみの教育、子どもの居場所、大人同士の交流

1 はじめに

豊かな自然や文化、歴史の遺産に恵まれたここ和歌山を、さらに住み良い地域に創り上げていくためには、学校・家庭・地域が連携協力しながら、地域全体で、将来を担う子どもたちを育てる環境づくりを進めていくことが重要である。

こうしたことから、子どもと大人が共に集い、子どもに様々な活動機会を提供するとともに、そこに集う大人同士の交流や学習を促進する拠点として、「地域ふれあいルーム」を全県的に開設し、大人と子どもの交流活動を推進していくこととした。

本事業は、文部科学省が平成16年度から、「地域教育力再生プラン」の事業の1つとし、委託事業「地域子ども教室推進事業」を活用し展開するもので、県立図書館、県教育センター学びの丘（県立情報交流センターBig・U内）、すべての県立盲・ろう・養護学校をはじめ、県内市町村域において各地域の特色を生かした「地域ふれあいルーム」を開設している。

運営は、各ルームごとに組織された実行委員会が、子ども向けのプログラムを考え、活動内容全般について企画し、実施することになっている。

また、多くの地域住民の方々の協力を得ながら、年間を通じて地域の実情に即した住民の方々の創意工夫による多彩な取組も展開されており、こうした子どもを核とした活動を通し、大人自身の学びや新たなつながりを生みだし、地域の教育力の向上を図る取組としたいと考えている。

さらに、住民参画の観点から、市民間のネットワークや専門分野等における知識・技術を生かし、子どもの体験活動や子どもと大人の様々な交流活動等を促進するため、NPOに対しても「地域ふれあいルーム」の企画と運営を委託しており、三年間のルーム数は、平成16年度99カ所、平成17年度128カ所、平成18年度では142カ所となっている。

2 地域子ども教室推進事業『スペース～遊U～』について

(1) 事業内容

『スペース～遊U～』は、平成17年度から県立施設の県教育センター学びの丘及びその周辺という位置付けで開設し以下の3ヵ所を拠点とし、事業を展開した。

拠点①ゆうゆうおはなしかい（県教育センター学びの丘：グループ研修室1）

運営は、県立紀南図書館ボランティアの方々が中心となり、親子で楽しめる内容を主眼に、絵本や紙芝居等を用意し実施した。

拠点②スペース～遊U～（県教育センター学びの丘：各室）

県教育センター学びの丘等施設の特徴を最大限に生かした内容（サイエンス・アート・スポーツ等）を実施した。

拠点③新二小のスペース～遊U～（田辺市立新庄第二小学校）

田辺市立新庄第二小学校は、県教育センター学びの丘が所在する田辺市新庄町にある2つの小学校の一つであり、周辺学校との連携や地域の特色を考慮し実施した。

(2) 事業展開

平成18年度第1回実行委員会では、平成17年度実績を基に、平成18年度計画（表1）によって検討した。この会議で特に留意された点は、平成17年度事業実施による成果と課題を踏まえ、平成18年度に具体的方策としてどのように反映させるかであった。

以下、成果と課題を挙げる。

{成果}

- ・子どもたちの「居場所」の確保
- ・単発的な活動から経常的な取組への定着
- ・様々な体験活動の実施
- ・地域住民の交流活動と大人のネットワークの拡大
- ・子どもたちが健やかに育成するための、家庭、地域、学校の教育力の結集
- ・関係機関団体との連携の強化

{課題}

- ・子どもたちの心身ともにたくましい自立心の醸成
- ・意図的、計画的な多様な体験活動の機会の充実
- ・安全安心な活動拠点と指導員等の確保
- ・様々な子ども活動プログラムの実施
- ・活動プログラム・実践事例の提案、提供及び情報発信
- ・子どもの様々な活動をサポートする人材の養成及びスキルアップ

表 1 事業比較表（平成17/18度）

	平成 18 年度計画	平成 17 年度実績
ゆうゆう おはなし かい	日時 毎週日曜日 10:30 ～ 11:30 回数 年間 50 回 場所 県教育センター学びの丘 内容 絵本等の読み聞かせ 対象 幼児、小学生、保護者 申込 不要	日時 毎週日曜日 10:30 ～ 11:30 回数 年間 50 回 場所 県教育センター学びの丘 内容 絵本等の読み聞かせ 対象 幼児、小学生、保護者 申込 不要
スペース ～遊U～	日時 隔週土曜日 9:30 ～ 11:30 (第 2・4) 回数 年間 15 回以上 場所 県教育センター学びの丘 内容 科学体験 手芸体験 料理体験 スポーツ体験 むかし遊び体験 対象 小学生、保護者 申込 事前申込み必要	日時 隔週土曜日 9:30 ～ 11:30 (第 2・4) 回数 年間 20 回 場所 県教育センター学びの丘 内容 科学体験 6 回 手芸体験 5 回 料理体験 5 回 スポーツ体験 4 回 対象 小学生、保護者 申込 事前申込み必要
新二小の スペース ～遊U～	日時 第 2 水曜日 15:00 ～ 16:30 回数 年間 5 回以上 場所 新庄第二小学校体育館 内容 キンボール ドッジボール、 読み聞かせ等 対象 新庄第二小学校児童、保 護者、地域の方 申込 不要	日時 第 2 水曜日 15:00 ～ 16:30 (第 2・4) 回数 年間 10 回 場所 新庄第二小学校体育館 内容 キンボール ドッジボール、 読み聞かせ等 対象 新庄第二小学校児童、保 護者、地域の方、 申込 不要

(3) 実行委員会

本事業については、「スペース～遊U～実行委員会」＜表 2＞を組織化し、主体となってその実施に当たった。年間 3 回開催し、企画内容、事業の実施、事業実施後の検証、評価、広報・普及に関することを主に協議した。

①実行委員会の構成

表 2 実行委員会の構成

平成 18 年度	平成 17 年度
子どもと本の紀南ネット代表	田辺・西牟婁子どもと本の楽しさを考える会代表
会津スポーツクラブ代表	会津スポーツクラブ代表
Com 子育て環境デザインルーム代表	田辺市ファミリーサポートセンターきつぱーく代表
田辺市立新庄第二小学校 PTA 会長	田辺市立新庄第二小学校 PTA 会長
田辺市立新庄第二小学校地域連携担当教員	田辺市立新庄第二小学校地域連携担当教員
田辺市立新庄中学校長	田辺市立新庄中学校長
県立紀南図書館長	県立紀南図書館長
県教育センター学びの丘生涯学習支援課長	教育センター学びの丘生涯学習支援課長
ふれあいルームコーディネーター	県教育センター学びの丘生涯学習支援課
県教育センター学びの丘生涯学習支援課	県教育センター学びの丘生涯学習支援課
県教育センター学びの丘生涯学習支援課	県教育センター学びの丘生涯学習支援課
県教育センター学びの丘生涯学習支援課	

②実行委員会の開催

【平成 17 年度】

第 1 回 平成 17 年 6 月 17 日
 第 2 回 平成 17 年 11 月 11 日
 第 3 回 平成 18 年 3 月 14 日

【平成 18 年度】

第 1 回 平成 18 年 5 月 30 日
 第 2 回 平成 18 年 8 月 29 日
 第 3 回 平成 19 年 2 月 5 日

③研修会等の開催

紀南地方地域ふれあいルーム指導者・事務局実践交流会<平成 18 年 7 月 19 日>
 地域ふれあいルーム指導者等研修会<平成 18 年 10 月 21 日>
 スペース～遊 U～安全管理員意見交換会<平成 19 年 2 月 5 日>

3 各事業の展開（平成18年度）

（1）拠点①「ゆうゆうおはなしかい」

表3 参加人数集計表

【活動時間】

- ・毎週日曜日の10時30分～11時30分に実施している。
- ・親子での参加や、活動場所までの移動時間等、実情に応じ柔軟に設定している。

【活動場所】

- ・毎回、安全・安心して活動できる同一の場所を確保している。（県教育センター学びの丘グループ研修室1）
- ・常設の机、椅子を整理し活動内容にも関わる環境、適切な場所の設定に努めている。

【活動内容】

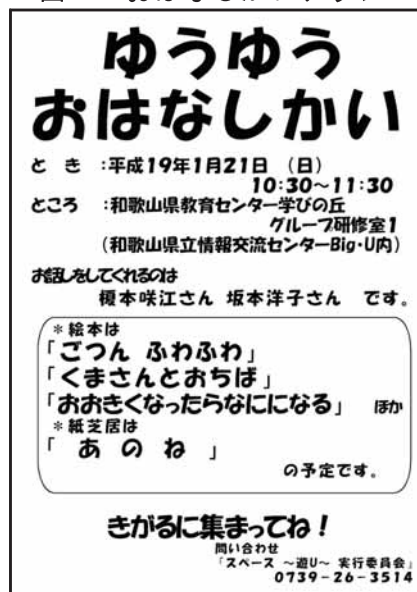
- ・実施回数は、50回。
- ・県立紀南図書館ボランティアゆうゆうが、活動をリードしてくれている。
- ・おはなし、絵本、大型絵本、紙芝居、大型紙芝居、手遊び、わらべうた、パネルシアター等により、当日対象者を考慮に入れながら実施している。
- ・「今月の本」を決定し、毎回の内容に必ず組み込んでいる。

回	年月日	児童数	保護者数	スタッフ	参加者総数
第1回	18.4.9	16	12	9	37
第2回	18.4.16	20	26	7	53
第3回	18.4.23	27	19	6	52
第4回	18.4.30	20	17	7	44
第5回	18.5.5	56	64	15	135
第6回	18.5.7	10	10	6	26
第7回	18.5.14	42	21	3	66
第8回	18.5.21	13	15	7	35
第9回	18.5.28	14	17	7	38
第10回	18.6.4	18	12	4	34
第11回	18.6.18	20	15	9	44
第12回	18.6.25	35	32	7	74
第13回	18.7.2	24	27	12	63
第14回	18.7.9	24	16	9	49
第15回	18.7.16	21	15	9	45
第16回	18.7.23	32	26	9	67
第17回	18.7.30	15	12	7	34
第18回	18.8.6	24	19	9	52
第19回	18.8.13	23	21	9	53
第20回	18.8.20	26	21	8	55
第21回	18.8.27	17	14	10	41
第22回	18.9.3	27	26	4	57
第23回	18.9.10	25	17	8	50
第24回	18.9.17	25	17	8	50
第25回	18.9.24	22	15	7	44
第26回	18.10.1	17	13	11	41
第27回	18.10.8	17	11	5	33
第28回	18.10.15	15	13	9	37
第29回	18.10.22	13	12	8	33
第30回	18.10.29	8	10	6	24
第31回	18.11.3	7	11	11	29
第32回	18.11.5	21	17	7	45
第33回	18.11.12	12	6	4	22
第34回	18.11.19	23	17	7	47
第35回	18.11.26	16	13	5	34
第36回	18.12.3	53	46	7	106
第37回	18.12.10	14	11	8	33
第38回	18.12.17	21	14	8	43
第39回	18.12.24	10	6	9	25
第40回	19.1.7	15	12	8	35
第41回	19.1.14	25	18	7	50
第42回	19.1.21	19	16	10	45
第43回	19.1.28	18	16	6	40
第44回	19.2.4	15	11	9	35
第45回	19.2.18	17	11	6	34
第46回	19.2.25	33	31	5	69
第47回	19.3.4	13	10	9	32
第48回	19.3.11	16	12	7	35
第49回	19.3.18	5	5	8	18
第50回	19.3.25	21	16	10	47
合計		1040	864	8	2290

【広報】

- ・県立紀南図書館において、実行委員会が作成したチラシを配布し、周知を図っている。

図1 おはなしかいチラシ



【評価】

- ・毎回参加の親子が、全体の3割程度を占めている。
- ・毎回の反省を基に、ゆうゆう（県立紀南図書館ボランティア）が運営に当たっている。
- ・部屋の飾り付けもでき、良い雰囲気の中でのおはなしかいが展開できた。

(2) 拠点②「スペース～遊U～」

【活動時間】

- ・第2・4の隔週土曜日の9時30分～11時30分に実施している。
- ・親子共の参加や、活動場所までの移動時間等、実情に応じ柔軟に設定している。

【活動場所】

- ・活動内容、参加人数により適宜、活動場所を設定している。
- ・当教育センター学びの丘の施設機能を十分に考慮し、活動場所設定に努めている。

【活動内容】

- ・実施回数は、20回。
- ・子どもの体験活動の充実及び子ども同士、大人と子どもとの交流を中心に実施している。
- ・実施内容（表4）として、サイエンス、アート、スポーツ等として、子どもたちの体験活動の機会不足の現状を考慮のうえ、内容の選定、精選に当たっている。
- ・安全対策の一つとして、活動に際しては子どもも大人も名札着用を徹底している。
- ・各回の参加者定員は、活動内容により決定している。
- ・事前の電話申込みを原則としている。活動内容によっては、申込み開始日早々に定員に達する場合もある。

【広 報】

- ・チラシは実施前月に、7,000部（年8回）を印刷し、当県教育センター学びの丘周辺の市町村教育委員会を通して配布している。
- ・周辺県立学校地域ふれあいルーム実施校（県立南紀養護学校、はまゆう養護学校）へのチラシ配布を毎回行っている。

【評 価】

- ・普段できない多様な活動が子どもの興味関心を向上させている。
- ・趣旨等が理解され、参加保護者の主体的な動きが目立ってきた。
- ・多様な活動内容に合わせた、施設活用ができた。

表4 平成18年度スペース～遊U～実施内容

日	時	内 容	部 屋	児童	保護者	砂刀	総数		
1	7月8日 土	9:30-11:30	サイエンス	ペットボトルで遊ぼう	多目的ホール	36	22	9	67
2	15日 土	9:30-11:30	サイエンス	空気砲と電氣くらげで遊ぼう	多目的ホール	32	18	5	55
3	8月19日 土	9:30-11:30	アート	布で小物入れを作ろう	物理地学・実技教科	15	9	5	29
4	9月9日 土	9:30-11:30	クッキング	クッキーを焼こう	物理地学・実技教科	26	14	5	45
5	23日 土	9:30-11:30	アート	フェルトでマスコットを作ろう	物理地学・実技教科	11	8	5	24
6	10月14日 土	9:30-11:30	スポーツ	グラウンドゴルフ	須崎論 後援会	37	25	14	76
7	21日 土	9:30-11:30	サイエンス	100度から-196度のミステリー	多目的ホール	57	27	22	106
8	28日 土	9:30-11:30	わくわく遊	むらさきを染めよう	実技教科実習室	20	13	6	39
9	11月4日 土	9:30-11:30	スポーツ	ビーチバレーボールをしよう	多目的ホール	16	8	15	39
10	11月11日 土	9:30-11:30	クッキング	パイを焼こう	物理地学・実技教科	28	13	4	45
11	11月18日 土	9:30-11:30	スポーツ	チャレンジ太極拳	研 修 室 1	18	13	6	37
12	12月9日 土	9:30-11:30	アート	ビーズでクリスマスグッズを作ろう	物理地学・実技教科	25	19	4	48
13	12月16日 土	9:30-11:30	クッキング	クリスマスカップケーキを焼こう	物理地学・実技教科	31	16	4	51
14	1月13日 土	9:30-11:30	わくわく遊	おりがみで遊ぼう	実技教科実習室	17	11	6	34
15	1月20日 土	9:30-11:30	スポーツ	チャレンジ太極拳Ⅱ	研 修 室 1	11	15	5	31
16	28日 日	9:30-11:30	スポーツ	キンボールをしよう	多目的ホール	27	17	20	64
17	2月3日 土	9:30-11:30	サイエンス	ブーメランとグライダーを作って遊ぼう	多目的ホール	49	33	6	88
18	2月10日 土	9:30-11:30	アート	牛乳パックでペン立てを作ろう	物理地学・実技教科	12	5	5	22
19	2月25日 日	10:00-12:00	アート	ハンドタオルで犬のマスコットを作ろう	実技教科実習室	27	13	5	45
20	2月25日 日	10:00-12:00	わくわく遊	おりがみで遊ぼうⅡ	実技教科実習室	37	17	5	59
						532	316	156	1004

(3) 拠点③「新二小のスペース～遊U～」

【活動時間】

- ・田辺市立新庄第二小学校との事前協議のうえ、水曜日（不定期）15時00分～16時30分に実施している。

【活動場所】

- ・活動内容、参加人数を考慮に入れ、小学校体育館を活動場所に設定している。

【活動内容】

- ・実施回数は、9回。
- ・子どもの体験活動の充実及び子ども同士大人と子どもとの交流を中心に実施している。
- ・施設活用の面から、スポーツ関係の種目が多い。
- ・定期的でない実施ではあるが、定まった保護者の参加もある。
- ・同校児童の参加については、自由参加としている。
- ・参加人数集計表（図2）から、低学年の参加が多い。
- ・毎回の活動順序がルール化され、児童各人が主体的に動いている。
- ・毎回、活動の最後に「寄せ書き画用紙」を配布し、絵や文による振り返りや気づきをグループ別で作成している。

【広 報】

- ・実施前月初旬に、在籍児童分のチラシを作成し配布している。

【評 価】

- ・安全安心な子どもの放課後の居場所として定着できた。
- ・学校側との子どもの見方についての共通認識が図れた。
- ・学校施設の活用により、事業全体への理解を深めることができた。

表5 実施内容

田辺市立新庄第二小学校学年別児童数						
1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
31	38	30	34	24	35	192

(H18.5.1)

回	日	曜	時間	内 容
1	6月28日	水	15:00～16:30	親子でドッジボール (ソフトバレーボールで)
2	7月12日	水	15:00～16:30	バレーボールをしよう (ビーチボールで)
3	9月13日	水	15:00～16:30	バレーボールをしようⅡ (ビーチボールで)
4	10月4日	水	15:00～16:30	バレーボールをしようⅢ (ビーチボールで)
5	10月25日	水	15:00～16:30	スポーツゲームをしよう
6	11月8日	水	15:00～16:30	絵本の読み聞かせ (熊野高校生)
7	12月6日	水	15:00～16:30	大なわとびをしよう
8	1月31日	水	15:00～16:30	なわとびで遊ぶ
9	2月7日	水	15:00～16:30	大なわとびをしよう

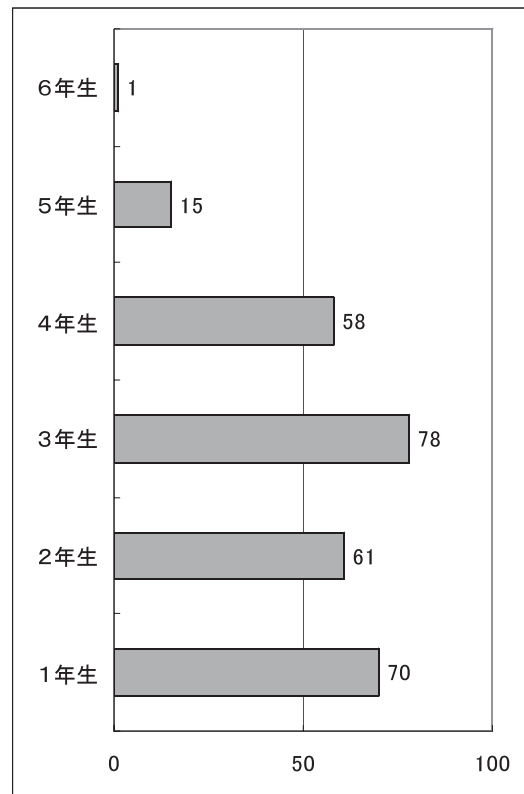


図2 参加人数

4 本事業の事業効果に関する分析

本事業においては、毎回の活動終了後「メッセージカード」を配布し、参加者に活動を振り返ってもらっている。感想や要望等が毎回多く寄せられ、主催者にとっては、事業展開、活動内容に参考となった。

以下は、上記等に基づき事業効果の点にしぼり、まとめることとする。

①子どもに対する事業効果の分析

- ・ 普段体験できないことや多様な活動内容が、子どもの興味関心を向上させている。
- ・ 低学年では、全般的に様々な活動に参加しており、参加によって自身の前向きな変化を強く感じている。
- ・ 面白い活動内容や親や大人との活動が主な評価軸となっている。

②保護者に対する事業効果の分析

- ・ 色々な体験や普段できない経験ができる点を高く評価している。
- ・ 本事業への参加を通して、家庭での会話や親子のふれあいが増している。
- ・ 本事業への保護者の参加は、地域全体で子どもを育てることに対する保護者の意識醸成の面でも有効である。

③地域の大人や地域社会に対する事業効果の分析

- ・ 地域住民同士の交流の促進や様々な地域活動の盛り上がりによる地域活性化につながっていくと考える。
- ・ 参加する地域の大人自身にとっても、地域とのつながりを更に深めるきっかけとなっている。

④活動場所となる施設に対する事業効果の分析

- ・ 本事業における3つの拠点の設定から、異年齢間の交流促進や社会性の向上などの効果がみられる。
- ・ 安全・安心な子どもの居場所（活動拠点）として着実に位置づけられた。
- ・ 学校施設の活用には、職員の児童理解の促進や施設全体としての事業への認識や発展などにも効果的である。

⑤指導員・ボランティアに対する事業効果の分析

- ・ 安全管理体制、また、その充実において、必要不可欠な存在となった。
- ・ 本事業による指導員やボランティアの発掘は、今後の他事業との関連においても好影響をもたらすものと考えられる。

⑥コーディネーターに対する事業効果の分析

- ・ 地域、学校、行政等との連絡調整や実行委員会の運営支援、事業協力者の確保や配置など、広範にわたる効果的な活動ができた。
- ・ 活動を進めていく中で、ルールや決まりをコーディネーターの存在により徹底できた。

5 本事業の総合的な評価

以上の分析結果を総合し、地域子ども教室推進事業『スペース～遊U～』の事業効果を総合的に評価すると、以下のように集約できる。

- 様々な体験活動を地域の大人にも教わりながら、色々な年齢の子ども同士が一緒になって行うという点が特徴的であるが、活動内容の面でも、活動を支える体制の面でも、あるいは活動形態の面でも、「普段できないことができる」ことこそが「楽しい」「また行きたい」と思わせる居場所として評価できる。
- 今回の活動が子どもの主体性や積極性の発現を促し、様々な場面における子どもの意欲を向上させている点は、特に注目に値する。
- 子どもと保護者間に話題が増えるなど、家庭教育の充実の面でも本事業がもたらす効果は大きいものがある。また、本事業による親の変化を子どもが敏感に感じ取り、親が自分により関心をもってくれているという安心感が生まれ、親子のふれ合いが深まると考えられる。
- 本事業が学校施設や様々な子どもの集まる施設を活用して実施されたことから、地域の大人、保護者、学校の間での理解や連携が進み、地域における子どもの居場所づくりに係る協働体制の構築、拡大に大きく寄与した点は、高く評価できる点である。
- 本事業において、活動や人材等の運営体制を充実するためには、取組に関わる人の協力を拡大することが重要となる。今後、地域の活動団体や住民、企業等との連携や情報交換、交流ができる機会の提供と併せて、協働体制の確立やネットワークづくりが最も重要である。

6 おわりに

人と関わることや自分の思いを伝えることが苦手な子どもたちが増加している。大人社会も同様である。地域社会においては、「地域ぐるみの教育」、「地域の教育力の再生」が叫ばれる昨今、2年間にわたる本事業、地域子ども教室推進事業『スペース～遊U～』によって、予想以上の効果が子ども、大人、地域社会に還元された。

県立施設にあっての本事業の展開は、県下2ヵ所であり、各市町村によるそれとは、「視点を変えて」を意識しながら進めてきたのも確かである。

参加者のニーズに応えられる多様な活動の用意、広報活動の充実、多様な活動を運営する指導者の確保、指導者間を調整するコーディネーターの養成やスキルアップなど課題も多い。

しかしながら、子どもたちの健やかな育成のためには、学校・家庭・地域のそれぞれの教育力の充実を図るとともに、それらの教育力を結集していけるような環境づくりを行うことが今後とも重要である。

<参考文献>

- ・文部科学省生涯学習政策局子どもの居場所づくり推進室『子どもの居場所づくり地域子ども教室推進事業実施のための手引き』（平成16年4月）
- ・「地域における子どもの居場所づくりについての調査研究」『埼玉県立総合教育センター研究報告書第320号』（平成18年3月）
- ・地域子ども教室推進事業普及委員会『「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書』（平成18年3月）

（文責 生涯学習支援課長 堀 修 志）